

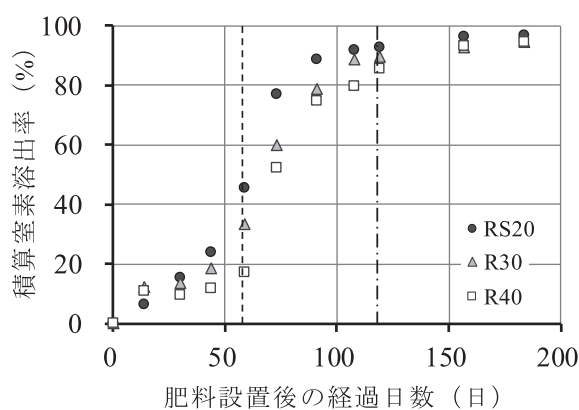


図1 肥料設置後の積算窒素溶出率^{1,2)}

1) 2017年の酪農試における結果。肥料設置は5/1。
2) 図中の点線は1番草、長鎖線は2番草の収穫日。

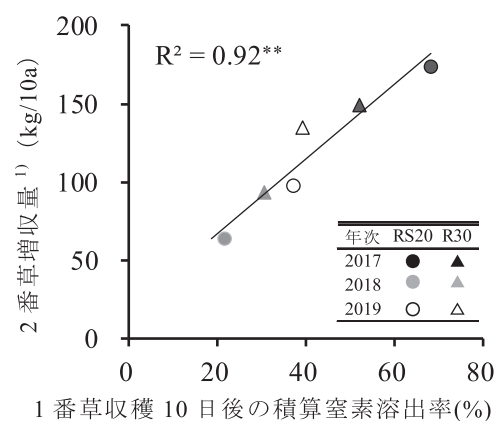


図2 1番草収穫10日後の積算窒素溶出率と2番草増収量との関係

1) 対照区との差引による値。2) ** $p < 0.01$ 。

表1 場内試験における乾物収量および窒素吸収量（単年施用試験、3年の平均値）^{1,2)}

処理区	乾物収量(kg/10a)						窒素吸収量(kg/10a)					
	1番草		2番草		年間		1番草		2番草		年間	
標肥区	739 ^a	100	442 ^a	100	1,181 ^a	100	9.0 ^a	100	5.0 ^a	100	14.0 ^a	100
対照区	770 ^a	104	208 ^c	47	978 ^c	83	8.7 ^a	96	2.4 ^c	48	11.1 ^b	79
RS20	776 ^a	105	325 ^b	73	1,101 ^{ab}	93	9.7 ^a	108	4.2 ^b	84	13.9 ^a	99
R30	751 ^a	102	323 ^b	73	1,074 ^b	91	9.8 ^a	108	3.7 ^b	75	13.2 ^a	94
無窒素区	301 ^b	41	160 ^d	36	461 ^d	39	2.9 ^b	32	2.1 ^c	42	5.0 ^c	36

1) 同一番草の異なるアルファベット間に有意差あり (Tukey-Kramer, $p < 0.05$)。2) ゴシック体は、標肥区を100とした相対値。
3) 2番草収穫後、概ね10月上旬頃までの窒素吸収量。

表2 現地試験における乾物収量、牧草中肥料成分含有率および冠部被度

処理区	乾物収量(kg/10a)						肥料成分含有率(乾物中%)						冠部被度(%) ⁴⁾		
	1番草		2番草		年間		1番草			2番草			(3年目2番草収穫前)		
	N	P ₂ O ₅	N	P ₂ O ₅	N	P ₂ O ₅	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	TY	WE	裸地
標肥区	638 ^b	100	376 ^a	100	1,013 ^a	100	1.5	0.5	1.9 ^{ab}	2.0	0.7	2.0 ^a	89 ^a	11 ^b	0
対照区	680 ^{ab}	107	227 ^c	60	907 ^b	90	1.4	0.5	1.8 ^b	2.0	0.9	1.6 ^b	46 ^b	53 ^a	1
被覆尿素区	721 ^a	113	299 ^b	80	1,020 ^a	101	1.5	0.6	2.1 ^a	2.0	0.8	1.8 ^b	91 ^a	9 ^b	0
無窒素区	375 ^c	59	188 ^c	50	563 ^c	56	1.2	0.5	2.2	2.0	0.9	2.8	18 ^b	80 ^a	2

1) 同一番草・項目の異なるアルファベット間に有意差あり(肥料成分含有率は無窒素区を除く、Tukey-Kramer, $p < 0.05$)。
2) 同じ処理を3年間継続し、乾物収量および肥料成分含有率は3年間の平均値。ゴシック体は、標肥区を100とした相対値。
3) 年間施肥量(N-P₂O₅-K₂O, kg/10a)は、標肥区:16.2-8.4-19.2、対照区:10.2-6.0-13.2、被覆尿素区:16.0-8.0-18.0(うち、Nの5.3はR30)、無窒素区:0-8.2-17.9で、標肥区と無窒素区は早春(年間施肥量の2/3)と1番後(同1/3)に分施、対照区と被覆尿素区は全量を早春に施用。
4) TY:チモシー、WE:地下茎型イネ科草。

詳しい内容については、次にお問い合わせ下さい。
道総研酪農試験場 草地研究部 飼料環境グループ 松本 武彦
電話 (0153) 72-2843 FAX (0153) 73-5329
E-mail matsumoto-takehiko@hro.or.jp